

## インタビュー

浜松ホトニクス社長  
晝馬 明氏

「研究開発型のDNAは創業者らが師と仰いだテレビの父、高柳健次郎先生の精神が脈々と受け継がれている。人間でなく、自らの技術や産業を生み出そつという精神だ。当社の従業員は常に考えながらモノを作ってくれている」

(編集委員・田中弥生)

「浜松ホトニクスの強みは、小売店後東京大学特別栄誉教授のノーベル賞につながったカミオカンデで脚光を浴び、同社は経常利益率15%超の高収益を誇る。研究開発を重視したモノづくりの姿勢や医療、エネルギーなど幅広い分野への応用が期待される光の可能性について、晝馬社長に聞いた。」

## 医療・エネ分野に「光」を

「研究開発費に売上高の1割を投じています。研究開発の基本は自由競争。ただ各部門は独立採算で経費と成果の帳尻を合わせている。開発部門といえども、従業員一人ひとりが経営感覚を持つことが重

要だ。成果を出せば何でもできる。ただし失敗しても懲罰はない。失敗は次の糧にすればよい。人類が必要とする技術、製品を開発すれば利益はついてくる」

「失敗は次の糧。人類が必要とする技術、製品を開発すれば利益はついてくる...と晝馬さん

## 人まねでなく自ら技術創造

光の研究と光技術を基盤とする製品開発で人類未知未踏を追求する浜松ホトニクス。その高い技術力は小売店後東京大学特別栄誉教授のノーベル賞につながったカミオカンデで脚光を浴び、同社は経常利益率15%超の高収益を誇る。研究開発を重視したモノづくりの姿勢や医療、エネルギーなど幅広い分野への応用が期待される光の可能性について、晝馬社長に聞いた。

## 人まねでなく自ら技術創造

「光電子増倍管や分光器を大幅に小型化する技術を使えば、各分野で携帯型機器の開発が可能になり、応用範囲が広がる。レーザーを使ったワーカーハーフ断熱技術のステルスダイシングも発光ダイオード(LED)や

「液晶分野で需要が期待されるなどを検査できる装置や、光半導体素子を使った

「電子放電断層撮影(PE

T)用検出器を開発している」

「レーザー核融合など光

「医療分野では光で乳がんなどを検査できる装置や、光半導体素子を使った

「電子放電断層撮影(PE

T)用検出器を開発している」

「トヨタ自動車、光産業

「創成大院大学と共同で、

「高柳健次郎先生の精神が脈々と受け継がれている。米バリモア国立研究

「高柳健次郎先生の精神が脈々と受け継がれている。米バリモア国立研究